ボランティアとの協働による登山道整備等の取組について

藤里森林センター　○緑化第二係長　松橋　良之
緑化第一係主任　大川　金光

１．はじめに

１９９３年、白神山地がUNESCOの世界自然遺産に登録されて１２年が経過しました。世界遺産への登録と中高年齢者を主体とした登山ブームも相まって、観光客や登山者など入り込み者の増加により、登山道の拡幅や非在来植物の侵入、希少植物の盗掘、ゴミの投棄など、白神山地の生態系への影響が懸念されています。

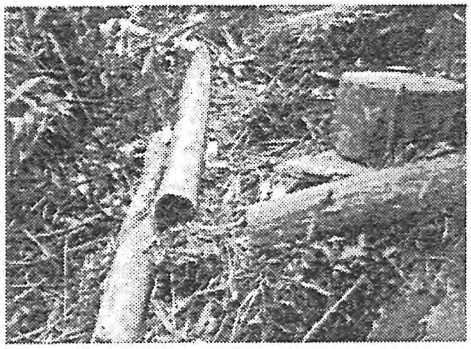


写真1 登山道の損傷

特に、登山道については、登山道の損傷や拡幅（写真１）、人間によるブナ林等の根の踏み固め（写真２）が目立ってきており、地元関係者からも登山道整備等の要望が出されるなど大きな問題となりつつあります。

写真2 根の踏み固め

一方、白神山地周辺では、環境問題への関心の高まりとともに、ボランティアの活動数が増加し、その活動内容も多様化し、森林づくりのための活動や自然再生等に積極的に取り組む活動も現れてきています。

今回、こうした地域のボランティア団体との連携・協力により実施した、登山道整備等の取り組み事例について紹介します。

２．白神山地の保全管理等の現状

（１）遺産地域管理計画及び連絡会議

白神山地世界遺産地域の保全管理に当たっては、法令等に基づくほかは１９９５年に策定された白神山地世界遺産地域管理計画に基づき取り組んでいます。具体的には、各種制度を所管する林野庁（東北森林管理局）、環境省、文化庁及び青森・秋田両県を構成メンバーとする白神山地世界遺産地域連絡会議を設置し、同連絡会議が主体となり様々な保全対策を推進しています。

登山道整備に関しては、管理計画では、「遺産地域の適切な管理を促進するため、自然環境への影響に配慮しつつ、必要に応じ標識、歩道等の管理施設の整備を行う」と定めており、遺産地域のうち緩衝地域（Buffer　Zone）では、保全を図りつつ、教育・レクリエーションの場として、歩道整備のほかベンチ、標識等の整備も行っています。

（２）森林センターの取組

森林センターでは、世界遺産地域のうち、秋田県側の遺産地域とその周辺地域の保全活動を行っています。遺産地域では二ツ森（１，０８６m）や小岳（１，０４２m）、周辺地域では藤里駒ヶ岳（１，１５８m）、岳岱自然観察教育林（レクリエーションの森）などをフィールドに巡視活動や登山道の整備に取り組んでいます。

巡視を行う中で、簡易な登山道の補修等についは、職員実行により実施していますが、大がかりなものについては、請負等に頼らざるを得ないのが現状です。

（３）巡視員会議の開催

巡視活動（森林パトロール）については、センター職員等による巡視活動を補完するため、民間の方々を「巡視員」として委嘱し、ボランティアによる巡視活動を行っていただいています。巡視員同士の意見交換や情報交換等を行うため、巡視員を一同に集めた巡視員会議を年２回開催しています。

昨年６月４日開催の会議において、巡視員の方々から、「二ツ森や岳岱の危険箇所の整備と補修」、「樹木の根の踏み固めへの対応」等について、多方面から意見が出されたところです。

３．登山道整備等の取組

このような白神山地の保全を巡る現状と地元からの要望等を踏まえ、今年度行った取り組みの概要は次のとおりです。

（１）ボランティアによる二ツ森登山道の整備【事例１】

ア　登山道の現状

二ツ森は、青森県と秋田県の県境に位置し、世界遺産地域の緩衝地域となっています。登山道入口から山頂まで往復でも２時間というアクセスの良さと原生的なブナ林を一望できる眺望などから、毎年多くの登山者が訪れています。一昨年、年間約６千人が入山しています。

登山道は、平成８年度と１２年度に階段工を設置するなどの整備を行っていますが、５年が経過し、これに伴う登山道の拡幅が生じ、かねてから登山道整備の要望が出されていました。

イ　現地検討会の開催

６月９日、森林センターをはじめ環境省、秋田県、八森町、地元巡視員など関係者１１名に参加していただき、登山道整備のための現地調査と検討会（写真３）を開催しました。

現地調査の結果、登山道に設置してある丸太の輪切りが傾き滑りやすくなっている箇所や階段工が急なため階段の脇が歩道として拡大している箇所など、早急に整備が必要と思われる箇所が２箇所程確認されました。

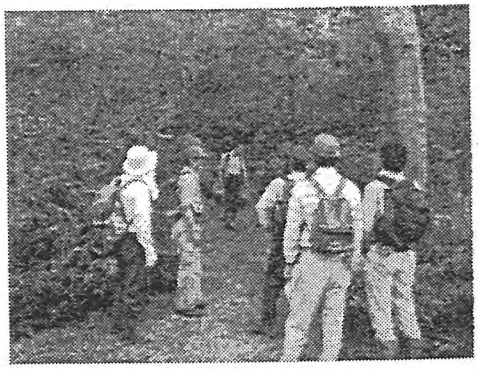


写真3 検討会の様子

調査後の検討会では、整備のための十分な予算が確保できない中、地元ボランティア団体等へ協力を呼びかけ、関係者が連携して整備を行い、登山者の安全確保に努めていくことを確認しました。

ウ　ボランティア等による整備

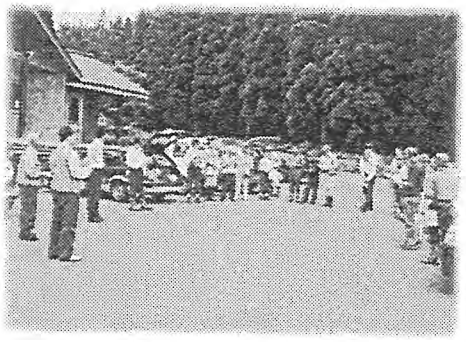


写真4 開会式の様子

地元ボランティア等に呼びかけを行ったところ、本格的な夏山シーズン前の７月２０日連絡会議の関係機関をはじめ、巡視員、NPO法人白神ネイチャー協会、米代西部森林管理署フォレストボランティアから約３０名が参加し登山道整備を行いました。

当日は、八森町のぶなっこランドで開会式（写真４）を行った後、二班に分かれ作業を開始しました。作業は、滑りやすくなっている輪切りの階段の表面に滑り止めの板（２００枚、１５０段）を張り付ける作業（写真５）と、歩道が拡幅している箇所では、新たに丸太の階段工を設置（３０段）するなどの整備（写真６）を行いました。

写真5 滑り止めの板を張り付ける作業

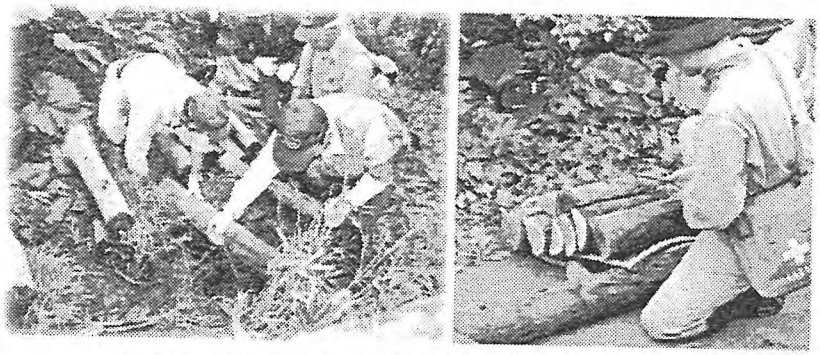


写真6 丸太の階段工を設置する作業

（２）インターンシップによる岳岱の歩道整備【事例２】

ア　歩道の現状

岳岱自然観察教育林は、世界遺産地域の周辺地域に位置するものの、遺産地域と同様のブナ林が見られ、トイレや展示施設が設置されるなど、自然観察の場として多くの入り込み者があります。一昨年、年間１万人近くの方が訪れています。

教育林内の歩道は、平成１５年度にバリアフリーのチップ歩道と木道を設置し、一部整備は行われているものの、整備未了箇所は、入り込み者によるブナ等樹木の根の踏み固めが見られ、踏圧防止のための対策が必要とされていました。

イ　現地検討会の開催

７月２６日、二ツ森の整備と同様に、藤里町、地元巡視員、環境省、米代西部森林管理署の関係者に参加していただき、歩道整備のための現地検討会を開催しました。

現地検討会の結果、特に、林内のベンチ設置箇所周辺の踏み固めが顕著であり、早急な対策が必要との認識で一致し、当面の措置として、８月に環境省で実施するインターンシップ（学生就業体験）の協力を得て木材チップを敷設することとしました。

ウ　インターンシップによる整備

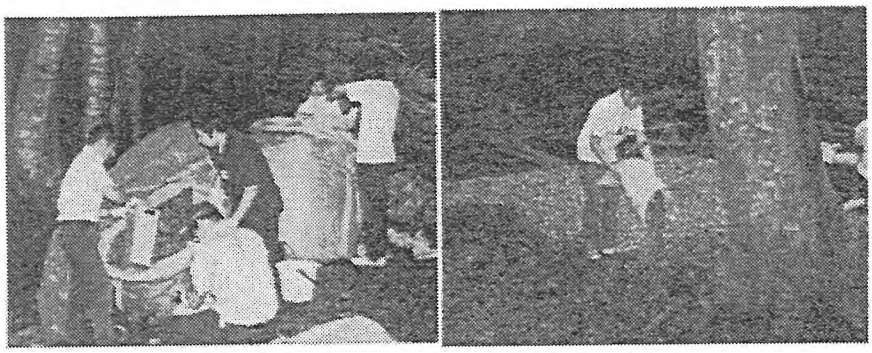


写真7 インターンシップと木材チップ敷設

８月２日～４日の暑いさなかの３日間、環境省世界遺産センターのインターンシップによる国際教養大学の学生３名により、木材チップの敷設（写真７）を実施しました。実施箇所は、踏み固めが顕著となっているベンチ設置箇所周辺の２箇所を優先的に実施し、最終日の４日には森林センター職員も参加し、調達した全木材チップ１．６トンの敷設を終了しました。

（３）合同パトロールによる藤里駒ヶ岳登山道の点検【事例３】

８月１１日、世界遺産地域連絡会議の主催により、巡視員や関係機関による合同パトロールを二ツ森と藤里駒ヶ岳で実施しました。

合同パトロールは白神山地の動植物の保全や入山者のマナー向上等を目的に毎年夏山シーズンに行っています。今回は初めての試みとして、秋田県立鷹巣農林高校の生徒１１人（写真８）が「一日ボランティア巡視員」として加わり、ゴミの持ち帰りなどマナーの向上を呼びかけました。

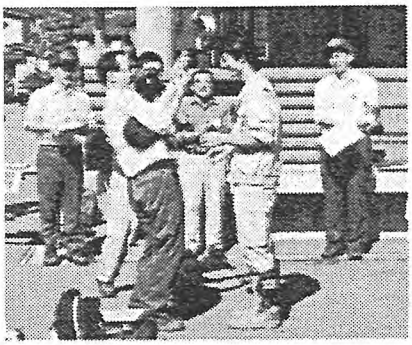


写真8 一日巡視員証の交付

藤里駒ヶ岳では、センター職員のほか関係者により平成１４年度に新設した登山道、２，３４１ｍの点検を行いました。その結果、新設登山道のぬかるみや急勾配に伴う階段増設箇所、木材チップの敷設箇所など、今後整備に取り組んでいくことを確認しました。

４．今後の課題

昨年、総務省が行った「白神山地の保全に係る行政評価」においても、登山道、歩道等の適切な改善について指摘がなされたところです。

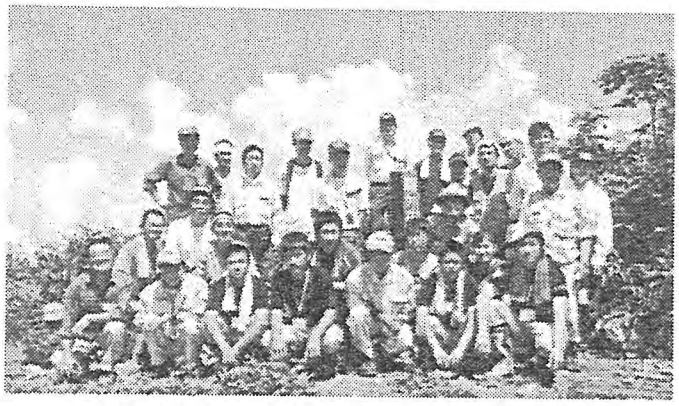
また、白神山地世界遺産地域は屋久島の自然遺産と異なり、対象地域が二県四町村にまたがり、登山道の整備・管理をはじめ保全等に向けた役割が明確に示されていない部分も見受けられます。

今後は、連絡会議が主体となって、緊急度や優先度を勘案しつつ、整備や管理のための費用負担の問題等も含めて検討し、地域の関係者の合意形成を図りながら取り組んでいくことが必要です。

5．おわりに

今回の登山道整備の取り組みは、広大な白神山地のごく一部分の取り組みで、今回整備した箇所以外にも整備の必要な箇所はたくさんあります。

今回の実施を通じて、関係者の間では、ボランティア等への呼びかけをもっと大々的に行うことも必要との意見もあり、来年度以降取り組むに当っては、多くのNPOやボランティア団体など様々な主体との連携した取り組みを進め、世界遺産である白神山地の自然環境を後世に伝えていければと考えています。



合同パトロールによる登山道点検(藤里駒ヶ岳)